

協議概要

(会議名)	令和8年度 第1回船橋市特別支援連携協議会
(日時・場所)	令和8年5月18日(木) 14:30~16:30 千葉県船橋合同庁舎分室1
(出席者)	植草学園大学特命教授 佐藤 慎二、 千葉県発達障害児・者親の会「コスモ」副会長 若月 梨香、 幼稚園連合会長 尾木 修介、船橋公共職業安定所長 進藤 誠、 市川児童相談所船橋支所長 島貫 奈津子、 千葉県教育庁葛南教育事務所指導主事 上出 照仁、 福祉サービス部長 岡部 佐知子、地域子育て部長 小澤 洋一、 市立船橋高等学校長 近藤 義行、市立船橋特別支援学校長 神田 順子、 小学校長会長 仁平 義行、中学校長会長 日高 祐一郎、 特別支援学級設置校校長会長 松尾 彩子、 特別支援教育研究連盟理事長 生井 敏昭、 教育次長 小栗 俊一、学校教育部長 長谷川 右、 市総合教育センター所長 和久 貴子
(事務局)	金子勝一、上田恵美子、星野沙織、武田芳樹、後藤薫、鈴木智実、鈴野浩之

<議題>

乳幼児期から学校卒業後までの一貫した支援ネットワークづくり

<概要>

- ・事務局より昨年度の報告
個別の指導計画書式の見直し、個別の教育支援計画作成活用の手引き、個別の指導計画文例集、保護者向けリーフレットの作成を行った。
- ・事務局より今年度の方向性について提案
現在、どのように関係機関や進学先等に情報が受け渡されているのかを市内全校を対象にアンケートを実施する。個別の教育支援計画、個別の指導計画は活用されているのか、関係機関との連携が図られていない場合は何がボトルネックとなっているのか等を把握する。
引き継ぎの手引きの作成準備をする。保護者が前向きに協力いただけるような周知の仕組みについても検討を深める。切れ目のない支援体制の構築を目指す。
- ・保育園も幼稚園も学校も人手不足の状況がある。若年層の職員を育てるベテラン層の職員も不足している。
- ・学校の管理職を含め、職員が福祉との連携について詳しく理解できていないこともある。
- ・個人情報保護法を守りながら、どのように情報を引き継いでいくのか。
- ・市教委が直接、学校の職員に個別の教育支援計画などの記入の仕方などを伝えてもらえるとうりがない。
- ・千葉県の特別支援学級の担任のうち、半数は新任である。
- ・特別支援学校の職員のうち、特別支援教育の経験をしたことがある職員は2割を切っている。
- ・教育支援計画作成活用の手引きや文例集に特別支援学校の生徒（障害程度の重い児童生徒）にフォーカスしたものもほしい。
- ・就労ではどのように人生を送りたいのかという本人の意思や思いが大切。
- ・発達障害を抱える子の子育てで、一番大変なのは、就学前。この時期のサポートや相談先等が充実し

ていると保護者としては安心できる。

- ・特別支援学級でも個別の指導計画が活用しきれてないという現状もある。
- ・LDのお子さんの支援は学校によってできる合理的配慮が違ってくる。LDに対する共通の手立ての仕方が学校で進むと良い。
- ・「あまり引き継ぎがされていないみたいです」という保護者からの意見は多数ある。学校としてはしっかり引き継いでいても、保護者の立場としては、そのようにあまり感じられていないケースがある。保護者が、進学先にもしっかり情報が引き継がれていると実感できる引き継ぎができると良い。
- ・個別の教育支援計画等の作成数は小学校、中学校ともに令和4、5、6年度で増えている。
- ・中学校から高等学校への引き継ぎも増えている。一方で保護者の同意を得られずに高校へ引き継げなかったケースがあることは課題となっている。高等学校の先生は情報がほしいと思っている。
- ・学校によっては高等学校の入学説明会で配慮が必要な生徒の相談ブースを設けているケースもある。